椎葉のきずな

不土野小学校　五年　出口　碧羽

「もろつかに行けんくなったぞ。」

突然、お父さんがぼくに言ってきた。「え、どういうこと。」とぼくはきかえした。

昨年九月、台風十四号が宮崎県に上陸した。地いきの人や大人の人が、「今度の台風は大きいから気をつけた方がいい。」と口にしているのが聞こえた。別に大丈夫じゃないかなと少しかるく考えていた。

けれどお父さんの仕事の時間が長く、いつもよりそわそわしていた。その様子をみて本当にあぶないのかもしれないと思った。やっぱりみんなの予想が的中し、大きな被害をもたらした。

ぼくのお父さんは、椎葉村役場の建設課で働いている。建設課では道路の復旧作業や道路管理をしていて、みんなが安全に道路を使えるようにしてくれている。そして消防団でも地いきの人たちが困った時などにすぐに動

いて助けている。ぼくのすんでいる地区は、川がとても近くにあったり、山々にかこまれているので少しの雨でも増水したり山がくずれたりする。このような時に地いきの人達と協力して自分達でできることをしている。それも椎葉村では、「かてこりゃ。」という。

台風十四号の時、数えきれないほどの土砂災害が起こりこりつする人やひなんする人などたくさんの人が生活に困った。ぼくの地区でもたくさんの人が小学校の体育館にひなんしていた。着のみ着のままの人や子どもだけでひなんした家族もいたそうだ。

ぼくのおばさんはひなんした人たちに必要な物を聞いて買い物に行った。そしてたのまれた人達にとどけた。ぼくのおばあちゃん家の下にすんでいるが家がくずれるすん前で、保育所にひなんしていた。約一ケ月も家に帰れないじょうきょうで、日向かあおまごさん達も遊びに来ていた。九月にしては、とてもさむい日があり、長そでが必要だった。だか

ら、ぼく達が小さいころに着ていた長そでや長ズボンなど持っていった。そして、学校の歴休みや放課後におじさん達が少しでも休めるように小学生みんなで遊んであげた。

古枝尾という地いきでは台風がすぎるころ土砂くずれが起きた。椎葉村の中心地に行くために必ず通る地いきだ。ぼくのお父さんにれんらくがきて、家族全員でかけつけた。近所の建設業のかも来てくれた。建設業の方がショベルカーで車が通れるくらいの土砂を除けてくれた。その後小さい枝や石をみんなで川に運び車のタイヤがパンクしないように道路をていねいにキレイにした。雨にぬれながら重い石を運んだので大変だったけれど作業が終わった時にはとても気分がスッキリした。

よくがんばったな。という言葉が身にしみた。これがかてしりという事なんだぞぼくは思った。

ぼくは将来お父さんやお母さんのように、

村づくりに取り組んで行きたい。村づくりに参加すると、きっと村がにぎわって、色々な行事が増えるのではないだろうか。

椎葉村は人口がげん少しているが、特に村出身者の人たちにもどってきてほしいと思っている。移住者も増えてほしいと思う。

みんなのかてしりの心で協力して生きていけば、土砂災害や困った事があっても、のりこえていけると信じている。そして、このかてしりの心を多くの人達に広めていきたい